

韓国語における初声 H (ㅎ) 発音に関する一考察

金 炫 勇

(受付 2018年5月28日)

1. 問題の所在と目的

韓国語^{注1)}は、言語の形態論や統語論という観点からみると、漢字語彙・助詞・語順・敬語法などにおいて日本語と類似・共通しているため、日本語母話者にとって他の言語に比べて容易に学習することが可能な言語といわれている¹⁾。しかし、音声・音韻といった観点からみると、日本語とは様相を異にしており、韓国語の発音は学習における大きな難点の1つである²⁾。日本語母話者を対象に韓国語学習の際の難点を調べた研究ら(梁, 2010: 184; 桂, 2005: 39; 朴ほか, 2017: 118)³⁾によれば、発音変化や発音規則は韓国語学習をする際、「もっとも難しいこと」「苦手なこと」になっている。また韓国語授業を受ける際、「もっとも補ってほしい部分」⁴⁾である。また韓国語の発音運用に関する研究を行った朴(2014)は、韓国語の発音変化や発音規則に対して正しい知識を持っている学習者の比率が低いと、発音への運用率も低く、間違った知識が発音に反映される傾向が強い⁵⁾と報告している。

本研究は、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとの初声 h (ㅎ) の発音に焦点を当てている。本研究の発端は、次のことに由来する。2017年6月26日、広島韓国教育院⁶⁾「韓国語講座上級クラス」で韓国語学習10年以上の経験をもつ、日本語母話者のNさんとKさんが、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとの初声 h (ㅎ) が続くと h (ㅎ) は弱音化・無音化するのか、それとも初声 h (ㅎ) は本音とおりに発音するのかをめぐって議論を行った。2人とも「韓国語能力試験 (TOPIK)」および「ハングル能力検定試験」の最上級の資格をもち、特にKさんは最近ソウルの大学で1年間語学留学をした経験があった。Kさんは、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとの初声 h (ㅎ) が続くと、初声 h (ㅎ) は本音とおりに発音すると主張した。その理由として「語学留学の際、韓国の先生から教えられた」「韓国で出版された韓国語辞典、Never 辞典⁷⁾、Google Translate などを見ると、初声 h (ㅎ) は本音とおりに発音する」「韓国ドラマやニュースを聞くと、初声 h (ㅎ) は本音とおりに発音している」などを挙げた。一方、Nさんは「(日本で)先生に教えられた」「(日本で出版された)韓国語辞書や韓国語学習書を見ると、初声 h (ㅎ) は弱音化および無音化している」と主張した。この相反する主張を課題と捉え、筆者は後日、日本の大学で韓国語を教えている教員8名(男子6, 女子2)に答えを求めた。その結果、「h (ㅎ) は弱音化および無音化する(4人)」「h (ㅎ) は本音

とおりに発音する（2人）」「両方可能である（2人）」という意見に分かれた。

先行研究をみると、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音変化だけを取り上げたものは散見の限りみられず、韓国語の諸発音に焦点を当てた研究の中で簡略に説明されている。たとえば、朴 (2008) は、韓国と北朝鮮を比較し、「韓国語で h (ㅎ) の発音に対する弱化や脱落は一般的な規則になっており、北朝鮮でも同様である⁸⁾」としたうえ、「北朝鮮で発行した『朝鮮マル規範集』に h (ㅎ) が省略された形態で発音表記されていた⁹⁾」と述べている。また梁 (2008) は、「ㅎの位置が母音と母音との間や前の文字の終声共鳴音であるㄴ, ㄹ, ㅁ, ㅇの場合は発音されなくなる。ㅎを意識的に発音しようとしてもなかなか発音できない¹⁰⁾」と述べている。さらに梁は、単語の例として「은행 (銀行) →으녕 (unɛŋ), 길흉 (吉凶) →기룽 (kirjuŋ), 감형 (減刑) →가명 (kamjɔŋ)」などを挙げている。また日本語母話者を対象に韓国語の発音変化の諸規則を紹介した姜 (2016)¹¹⁾ は、「先行音節の終声鼻音『ㅇ, ㄴ, ㅁ』と後続音ㅎの場合はサイレントに近いほど弱まり、先行音節の終声共鳴音が連音して発音される」と述べたうえ、その例として「은행 (銀行), 남해 (南海), 번호 (番号), 심하다 (ひどい)」などを挙げている。

しかし、韓国語の音声分析した研究では、初声 h (ㅎ) は本音とおりに発音している。たとえば、閔 (2007)¹²⁾ による韓国語の韻律記述の例「즉, 산호는 살아있으며 암석은 죽어있는 것이다 (つまり、珊瑚は生きており、岩石は死んでいるのである)」をみると、산호 (珊瑚) は산:호 (san:ho) として表記されている。つまり、終声 n (ㄴ) のあとの初声 h (ㅎ) は、本音とおりに発音している。また松崎・河野 (1998)¹³⁾ は、音声学の観点から「有声音と無声音の五十音図 (外来語を含む)」を作成しているが、これによると、「h (ハ)」が弱音化・無音化すると有声音になり、本音とおりに発音すると無声音になっている。金 (2017)¹⁴⁾ は、松崎らの指摘に着目し、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとの初声 h (ㅎ) の発音が弱音化・無音化すると有声音、初声 h (ㅎ) を本音とおりに発音すると無音になる特徴がみられたと報告している。また金は音声学的にみれば、声帯の振動があるかないかという明らかな違いがあるため、日本語母話者を対象に教授する際、正しい発音規則を示す必要があると指摘している。

またNHK出版の2018年『テレビでハングル講座4月号』では、「発音や発音表記等は、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国で異なることがある¹⁵⁾」と記している。つまり、大韓民国における発音表記と朝鮮民主主義人民共和国における発音表記を確認する必要がある。

そこで、本研究では相反する説明がみられる、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音を明らかにすることにした。以下の3点を研究の課題とした。

第1に、韓国語における発音表記の変遷 (大韓民国を中心に) を概略した上、終声 n (ㄴ),

r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音法 (朝鮮民主主義人民共和国を含む) を明らかにする。

第2に、韓国語教材 (主に大学教材) や韓国語辞典 (国立国語院の韓国語基礎辞典, Never 辞典, Google 辞典などネット辞典を含む) にみられる初声 h (ㅎ) 発音の説明を分析する。

第3に、韓国の大学生と韓国語を習う日本語母話者を対象に実態調査を行う。

2. 研究方法

本研究は、第1、第2、第3の研究課題を設けた。第1と第2の研究方法としては、文献方法を用いた。本研究において用いる文献は、韓国語の発音規則に関する基準や内容がみられる『ハングル発音表記法』『ハングル発音表記解説』、国語基本法「標準発音法 (全30項)」をはじめ、韓国と日本で出版された韓国語辞典および韓国語学習書などを主な分析の対象とした。また国立国語院韓国語基礎辞典 (韓国語-日本語辞典), Never 辞典, Google Translat など、学習者の利用度が高いと考えられるネット韓国語辞典も考察の対象とした。

また先行研究や韓国語を教えている教員の間で相反する答えが得られたため、第3の研究方法として、韓国語を習う日本語母話者と韓国の大学生を対象にアンケート調査を行った。

3. 韓国語における発音表記の変遷と初声 h (ㅎ) の発音規定¹⁶⁾

大韓民国における発音表記の変遷を概略すると、以下のとおりである。韓国語における発音表記研究の嚆矢は、1907年、大韓帝国^{註2)}の教育・学務・行政を担当する「学部 (1895年設置)」の中に開設した国文研究所である。国文研究所は、1910年、統一表記法を主張する国語 (韓国語) 学者・周時経 (1876-1914) の理論を反映した「国文研究義提案」を学部へ提出した。これにより韓国語の統一発音表記法への動きがスタートした。その後、1933年、朝鮮語学会 (1921年創立、のちにハングル学会) により「ハングル表記法統一案」が制定された。この統一案も周時経の理論に基づいたものであった。その後、朝鮮語学会が製作していた『朝鮮語辞典』を参考に、ハングル学会により1947年から1957年にかけて『大辞典 (全六巻)』が刊行された。これにより発音表記の規定が定められた。その後、1970年、文教部 (教育部の全身、日本の文科省) によりハングル表記法への検討が行われ、1984年「ローマ字表記法」、1986年「外来語表記法」、1988年「ハングル発音表記法 (標準語規定とも)」などが次々と公示された。また1991年には教育部傘下に「国立国語研究院」を設立され、本格的かつ科学的な国語 (韓国語) 研究がスタートした。そして、1999年、国立国語研究院により『標準国語

大辞典 上・中・下』が発刊され、今日の「標準発音法」の礎となった。

その後、2005年1月27日、国語基本法（法律第7368号）の制定とともに「標準発音法」が法令化された。国語基本法とは、2005年1月27日（法律第7368号）、国語（韓国語）の使用を促進し、国語の発展と保存の基盤を整えるため制定された国語関連の法律である。その後、国語基本法は、2008年2月29日（法律第8852号）、2008年3月28日（法律第9003号）、2009年3月18日（法律第9491号）、2011年4月14日（法律第10584号）、2012年5月23日（法律第11424号）、2013年3月23日（法律第11690号）、2017年3月21日（法律第14625号）に改定が行われた。

現在大韓民国における正しい韓国語の発音法は、「国語基本法」第3条の3「語文規定」によって定められている。語文規範の韓国語全文と日本語訳は、以下のとおりである。

“어문규범”이란 제13조에 따른 국어심의회의 심의를 거쳐 제정한 한글 맞춤법, 표준어 규정, 표준 발음법, 외래어 표기법, 국어의 로마자 표기법 등 국어 사용에 필요한 규범을 말한다. (국어기본법 제1장 총칙, 제3조3)¹⁷⁾

「語文規範」とは、第13条による国語審議会の審議を経て制定したハングル表記法、標準語規定、標準発音法、外来語表記法、国語のローマ字表記法など、国語使用に必要な規範のことである。(国語基本法第1章総則, 第3条の3)

また国立国語院は、「国語基本法（法律第14625号）」第3条の3「語文規範」に基づいて

表1 韓国語における発音表記の変遷（大韓民国の場合）

年度	主な事項	性格
1907	学部の中に国文研究所を開設	
1910	国文研究所が「国文研究義提案」を学部へ提出 周時経の理論が反映	発音表記のスタート
1933	朝鮮語学会の「ハングル表記法統一案」	周時経の理論が反映
1947	ハングル学会の『大事典(큰사전)』(1947～57)	規定を決める
1970	文教部、ハングル表記法(한글 맞춤법)検討スタート	
1984	1月13日、ローマ字表記法(국어의 로마자 표기법)	公示
1986	1月7日、外来語表記法(외래어 표기법)	公示
1988	1月19日、ハングル表記法(한글 맞춤법) 標準語規定(표준어 규정)	公示、規定の補完
1991	1月23日、文教部傘下の「国立国語研究院」設立	国語研究のスタート
1992	1月1日、『標準国語大辞典표준국어대사전』編纂スタート	
1999	10月9日、『標準国語大辞典표준국어대사전』(上・中・下)発刊	標準国語大辞典の発刊
2005	1月27日、国語基本法制定(法律第7368号)	法律化
2017	3月21日、国語基本法改定(法律第14625号)	7回目の改定

「標準発音法」を定めている。「標準発音法」第1項には、「標準発音法は、標準語の実際の発音に従ったもので、国語の伝統性と合理性を考慮して定めた」と記している。韓国語の標準発音は、1988年の「ハングル発音表記法（標準語規定）」にはじめて定められたものである。そのため、1988年文教部公示の「標準発音表」（全7章と30項）と国語研究所著『ハングル発音表記法解説』総155頁の中から終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音法を確認した。しかし、1988年の「標準発音表」にはみられなかった。終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音規定は、2014年の国立国語院著『ハングル発音表記法』からみられた。この内容は、国立国語院のホームページ「標準発音法第12項4の『解説』」から確認できる。この内容は本研究の主な研究内容を裏付けるものであるため、韓国語全文と日本語訳をつけた。

ㄴ, ㄹ, ㅇ, ㅁ과 ㅎ이 결합된 경우에는 본음(本音) 대로 발음함이 원칙이다. 경제학(経済学), 광어회(廣魚膾) 라든가 신학(神学), 전화(電話), 피곤하다, 임학(林学), 셈하다, 공학(工学), 상학(商学), 경영학(経営学) 등의 경우가 그 예들이다. 그리고 다만 실학(実学), 철학(哲学), 실하다, 팔힘 등과 같은 ㄴ과 ㅎ 과의 결합에서는 ㄴ을 연음시키면서 ㅎ 이 섞인 소리로 발음한다¹⁸⁾.

ㄴ, ㄹ, ㅇ, ㅁとㅎが結合する場合は、本音とおり発音するのが原則だ。경제학(経済学), 광어회(ヒラメの刺身), 신학(神学), 전화(電話), 피곤하다(疲れた), 임학(林学), 셈하다(計算する), 공학(工学), 상학(商学), 경영학(経営学)などがその例である。ただし실학(実学), 철학(哲学), 실하다(丈夫だ), 팔힘(腕の力)などのようにㄴとㅎが結合する場合は、ㄴを連音させながらややㅎを混ぜた音で発音する。(下線は、筆者が引いた。)

つまり、大韓民国では終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) は、本音とおりである。さらに、本研究では上記の内容を確認するため、文化体育観光部の国語政策課^{注3)}と教育部の国語生活総合相談室^{注4)}に終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) 規定について電話で研究員に問い合わせた。電話内容はすべて録音された。研究員の答え(録音内容)は、以下のとおりである。

表2 問い合わせの答え

文化体育観光部の国語政策課	教育部の国語生活総合相談室
質問内容：終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) は、弱音化・無音化するのか、本音とおり発音するのか。	

<p>終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) は、弱音化・無音化しない。전화 (電話) の場合, 지나다 (行く) ではなく, 전:화 (電) として発音する。また말하다 (話す) の場合, 마라다 (話) ではなく, 말:하다 (話) として発音する。国立国語院の標準発音法を参考してほしい。</p>	<p>終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) は、弱音化・無音化しない。国立国語院の標準発音法が正しい。문화 (文化) の場合, 무나 (文) ではなく, 문:화 (文) として発音する。外国人に무나と発音する現象が見られる。</p>
--	--

つまり、大韓民国では「標準発音法」という語文規範が法律として定められており、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) は本音とおりに発音することが確認できた。一方、朴 (2008) は、「北朝鮮で発行した『朝鮮マル規範集』に h (ㅎ) が省略された形態で発音表記されていた」¹⁹⁾ と述べているため、朝鮮民主主義人民共和国 (以下、北朝鮮) のものを確認した。調べた結果、北朝鮮は、韓国より早く1966年に標準発音法を定めていた。1966年、朝鮮民主主義人民共和国内閣直属国語査定委員会により公示された『朝鮮マル規範集 (조선말 규범집)』と1987年に一部条項及び内容を修正補充し、公示された『朝鮮マル規範集 (조선말 규범집)』における朝鮮語発音法の基準と内容は、以下のとおりである。この内容は、本研究の主な研究内容を裏付けるものであるため、朝鮮語全文と日本語訳をつけた。

조선말 발음법은 혁명의 수도 평양을 중심으로 하고 평양말을 토대로 하여 이룩된 문화어의 발음에 기준한다. (총칙, 1966 ; 1987)²⁰⁾

朝鮮語發音法は、革命の首都・平壤を中心地にし、平壤の言葉を土台にして成し遂げた文化語の発音を基準とする。(総則, 1966 ; 1987)

제18항 : 음절의 첫소리 (ㅎ) 는 모음이나 유향자음 뒤에서 약하게 발음한다.

례 : 마흔, 아흐레, 안해, 열흘, 일흔

(제 6 장 ㅎ과 관련되는 발음, 제18항, 1966)²¹⁾

第18項 : 音節の初声 (ㅎ) は母音や響く子音の後では弱く発音する。

例 : 마흔 (四十), 아흐레 (九日), 안해 (前年), 열흘 (十日), 일흔 (七十)

(第 6 章 (ㅎ) と関連する發音, 第18項, 1966)

제30항 : 소리마디의 첫소리 (ㅎ) 는 모음이나 올림자음 뒤에서 약하게 발음할 수 있다.

례 : 마흔, 아흐레, 안해, 열흘, 부지런히, 확실히, 험하다, 말하다.

(제10장 약화 또는 빠지기현상과 관련한 발음, 제30항, 1987)²²⁾

第30項：音節の初声 (ㅎ) は母音や響く子音の後では弱く発音することができる。

例：마흔 (四十), 아흐레 (九日), 안해 (前年), 열흘 (十日), 일흔 (七十) 부지런히 (真面目に), 확실히 (確かに), 험하다 (険しい), 말하다 (話す)

(第10章 弱化または脱落化現象に関する発音, 第30項, 1987)

つまり、北朝鮮の標準発音法は、平壤の発音が基準となっており、朝鮮語という名称が使われていた。韓国と北朝鮮における名称の歩み(表1参照)をみると、戦前は「国文」から「朝鮮語」および「ハングル」と表記していたが、戦後、その名称が変化していた。韓国の場合は、1991年を堺に「ハングル」から「国語(韓国語)」へと変わっていた。一方、北朝鮮では、「朝鮮語」として統一していた。名称問題は、欧米においては存在しないものの、日本においては歴史的背景から「韓国語」か、それとも「朝鮮語」かの議論がある。韓国語と呼ぶべきだと主張している側は、日本で使われている朝鮮という用語に差別的合意があるほか、日本では朝鮮半島と呼ぶが、韓国では韓半島と呼ぶなど、韓という文字で北と南の両方をカバーできるとして韓国語と呼ぶべきだ²³⁾と主張している。また中間点を探そうと「ハングル」「ハングル語」を主張するものや、コリア語という名も出現している²⁴⁾。また北朝鮮の場合、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くと初声 h (ㅎ) は、韓国と異なり弱音化および無音化していた。また標準発音法の制定は、北朝鮮1966年、韓国1988年になっており、北朝鮮の方が韓国より先に定めていた。

4. 韓国語教材およびネット韓国語辞典からの考察

4.1 韓国語教材からの考察

日本と韓国で出版された韓国語教材を対象に終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音に関する内容を考察した。日本における韓国語大学教材を分析した桂(2005)は、「日本では300冊(韓国語教材と朝鮮語教材を含む)以上の韓国語教材が出版されており、新刊も次々と出版されている」²⁵⁾と述べている。本研究では、日本と韓国の大学で使われている韓国語教材(一部は使われていたもの)のうち、日本国内のもの31件、韓国内のもの6件、都合37件を対象にし、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音に関する内容を考察した。その結果を書名、出版年度、著者・编者、出版社、初声 h (ㅎ) の弱音化および無音化説明の有無、頁などにまとめ、表3に示した。

桂(2005)は、日本と韓国の韓国語大学教材を分析し「韓国で出版されたテキストは『読む』『書く』『話す』『聞く』の四機能に加え、広意で文化、伝統まで取り入れた総合教材開発

へ向かう傾向と、汎用教材の開発に力を入れようとしていることに対し、日本での韓国語教材開発は、機能別目的別の分離教材開発が進められている²⁶⁾と述べている。また桂は「日本で開発されているテキストは、韓国語を学習した日本人と韓国人の共著によるものが多く²⁷⁾」「日本人によるテキストは、発音や文字の習得に多くの時間を割いている²⁸⁾」と、その特徴を述べている。今回確認した韓国語教材の内容は、桂(2005)の指摘とおりでであった。韓国内のもの6件からは、発音法に関する内容自体がみられなかった。一方、日本国内のもの31件のうち、17件から終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音に関する内容がみられた。そのうち、13件は終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音が弱音化および無音化していた。また4件は発音とおりになっていた。また音声表記は、韓国語のみで表記したもの、ローマ字と国際音声字母(International Phonetic Alphabet, 略して IPA) ミックス記号で表記したものがあった。国際音声字母は、国際音声学会が定めた、現在世界で一番広く使用されている音声表記ではあるものの、どうしても記号としての限界があるといわれている²⁹⁾。韓国語も音声表記上の細かさがあるため、ローマ字や国際音声字母ミックス記号など、著者独自のものが用いられていると考えられる。

まず初声 h (ㅎ) の発音は、「弱音化・無音化する」と説明している主な記述内容の事例を挙げると、以下のとおりである。

終声ㄴ, ㄹ, ㅁのあとに初声의가続くと、의はほとんど発音されず、終声ㄴ, ㄹ, ㅁと母音が一緒に発音される。

例: 전화(電話) →저나 천천히(ゆっくり) →천천히

결혼(結婚) →겨론 올해(今年) →오래

남학생(男子学生) →나마쌩 말하다(話す) →마라다

(生越直樹・曹喜澈, 韓国朝鮮語初級テキストことばの架け橋, 白帝社, 69頁)

ㅎは鳴音のパッチム(ㄴ, ㄹ, ㅁ)の後では、完全に脱落させて発音してもかまわない。

例: 심하다(ひどい) →시마다 열심히(熱心に) →열씨미

미안해(ごめん) →미아내 은행(銀行) →으냉

간절히(切に) →간저리 친절하다(親切だ) →친저라다

(飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子, 韓国語の基礎 I, 朝日出版社, 28頁)

また文部科学省認可通信教育の韓国語教材、山内政春著『韓国語Ⅱ』も初声 h (ㅎ) の発音は、弱音化・無音化すると説明していた(表3参照)。弱音化・無音化すると説明している

金：韓国語における初声 H (ㅎ) 発音に関する一考察

表3 終声ㄴ, ㄹ, ㄱのあとに初声ㅎが続くときのㅎの発音について(韓国語教材・学習書から)

書名	出版年度	著者/編者	出版社	h (ㅎ) 弱音・無音	頁
標準 韓国語会話	1973	河野六郎監修・金淑子	高麗書林	○	11, 103, 168
韓国語講座 I 初級用	1979	梁昊淵	高麗書林	○	51, 83, 117, 133, 154, 164, 185
한국어 회화 1	1986	김용규	고대한국문학연구원	×	×
한국어 1	1992	연세대학교 한국어학당	연세대학교출판부	×	×
アンニョンハシムニカハングル講座8,9月号	1992	日本放送協会 (NHK)	日本放送出版協会	○	5, 11, 37, 52, 57, 79, 83
가나다 KOREAN For Japanese	1997	GANADA Korean Language Institute	시사여류케미션	×	×
アンニョンハシムニカハングル講座6月号	1999	日本放送協会 (NHK)	日本放送出版協会	×	×
基礎から学ぶ韓国語講座初級	2004	木内明	国書刊行会	○練習問題あり	32
アンニョンハシムニカハングル講座9月号	2007	日本放送協会 (NHK)	日本放送出版協会	×	×
Campus Koreanはばたけ! 韓国語	2007	野間秀樹・村田寛・金珍城	朝日出版社	×	×
재미있는 한국어 1	2008	고려대학교 한국어문화교육센터	교보문고	×	×
アンコールハングル講座パート I	2008	日本放送出版協会 (NHK)	日本放送出版協会	×	×
まいにちハングル講座7月号	2008	NHK出版	NHK出版	○カナ表記のみ	22, 30, 40, 58, 70
바람세 한국어 初級	2009	金京子・喜多恵美子	朝日出版社	○練習問題あり	18, 32
新・チャレンジ! 韓国語	2009	金順子・坂堂千津子	白水社	○	26
まいにちハングル講座9月号	2011	NHK出版	NHK出版	○カナ表記のみ	20, 24, 56, 57
韓国語の世界へ入門編	2012	李潤玉・酒匂康裕・須賀井義教・睦宗均・山田恭子	朝日出版社	○練習問題あり	96, 97
韓国語へ旅しよう 初級	2012	李昌圭	朝日出版社	×	×
서울대 한국어 1A	2013	서울대학교 언어교육원	문진미디어	×	×
연세한국어1-2	2013	연세대학교 한국어학당	연세대학교출판문화원	×	×
韓国語の世界へ 初中級編	2013	李潤玉・酒匂康裕・須賀井義教・睦宗均	朝日出版社	○	100
おはよう韓国語 1	2014	崔栢珠	朝日出版社	×	×
韓国朝鮮語初級テキストことばの架け橋	2014	小越直樹・曹喜淑著	白帝社	○	69, 202
できる韓国語初級(新装版)	2015	李志暎	DEXIRU出版	×	×
韓国朝鮮語初級テキスト根と幹	2015	小越直樹・生越まり子・池玟京	朝日出版社	○	68
教養韓国語	2015	金智賢	朝日出版社	×	×
初級韓国朝鮮語教材阿里랑어리랑	2015	熊谷明康	朝日出版社	○	12, 13
グループで楽しく学ぼう! 韓国語	2015	朴美子・崔相振	朝日出版社	×	×
韓国語の基礎 I	2016	飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子	朝日出版社	○練習問題あり	28
スクスク! 韓国語一総合編一	2016	朴瑤度・林河運・崔在佑	朝日出版社	○練習問題あり	40, 114
韓国語 II、放送大学教材	2016	内山政春	放送大学教育振興会	○	69
楽しく学べる韓国語	2016	李美賢・李貞旻	白水社	○練習問題あり	148
話せる! 初級韓国語	2016	黃聖媛・黃景媛	朝日出版社	○練習問題あり	30
いよいよ韓国語	2018	金菊熙・李順蓮・安憲蓮・李旼映	朝日出版社	×	×
やさしい韓国語初級	2018	梁禮先・權点淑・曹恩美	朝日出版社	×	×
チョアヘヨ! 韓国語	2018	金庚芬・丁仁京	朝日出版社	×	×
おいしい KOREAN レッスン	2018	K. S. Jeong & S. S. Rung	Asahi Press	×	×

×: 記述内容がみられない

○: 記述内容がみられる

韓国語教材のうち、7件は練習問題を設けていた。

次に初声 h (ㅎ) の発音は、発音とおりにになると説明する事例を挙げると、以下のとおりである。

말하다 [ma : lhada] 言う

여전하다 [jɔdʒɔnhada] (以前と) 変わらない。

(梁昊淵, 韓国語講座 I 初級用, 高麗書林, 103頁と168頁)

열심히 [jɔls'imhi] 熱心に

서늘한 [sɔnɾhan] 涼しい

(河野六郎監修・金淑子, 韓国語入門, 高麗書林, 51頁と83頁)

일하다 [イールハダ i:rhada] 仕事する

결혼하다 [kjo:rhonhada] 結婚する

(日本放送協会, アンニョンハシムニカハングル講座8.9月号, 日本放送出版協会, 5頁と52頁)

以上のように, 終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音について, 韓国で出版された韓国語教材では, 発音表記法や説明がみられなかったものの, 日本で出版された韓国語教材では「弱音化および無音化する」, あるいは「本音とおりに発音する」という, 相反する説明がみられた。

4.2 韓国語辞典およびネット韓国語辞典からの考察

また韓国語辞典およびネット韓国語辞典を対象に終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音に関する内容を考察した。韓国語辞典のうち, 日本国内のもの 8 件 (そのうち 1 件は日韓共同編集), 韓国内のもの 2 件, 都合 10 件を考察の対象とした。さらに韓国の国立国語院の韓国語基礎辞典 (韓国語-日本語辞典)^{注5)}, Never 辞典^{注6)}, Google Translate^{注7)} など, 学習者の利用度が高いと考えられるネット辞典も考察の対象とした。

韓国語辞典およびネット韓国語辞典から終声 n (ㄴ) + 初声 h (ㅎ) を代表する単語として「전화 (電話)」, 終声 r (ㄹ) + 初声 h (ㅎ) を代表する単語として「말하다 (話す)」を確認した。その結果を示すと, 表 4 のとおりである。

韓国内の韓国語辞典, 『民衆잇센스韓日辞典』『標準韓国語発音辞典 (표준 한국어 발음사전)』は, 終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音は, 発音とおりになっていた。また日韓共同編集の『朝鮮語辞典』場合, 音声記号は初

表 4 終声ㄴ, ㄹ, ㅁのあとに初声ㅎが続くときのㅎの発音について (韓国語辞典およびネット韓国語辞典から)

書名	出版年度	著者/編者	出版社	전화 (電話)	말하다 (話す)
民衆잇센스韓日辞典	1983	安田吉実・孫洛範	民衆書林	jeon-hwa	mal-ha-da
韓国語大辞典	1986	大阪外国語大学朝鮮語研究室	角川書店	dʑo:nhwa: チョーンファ	ma:lhada: マールハダ
エッセンス韓日辞典	1989	安田吉実・孫洛範	白帝社	jeon-hwa	mal-ha-da
朝鮮語辞典	1993	小学館・金星出版社	小学館	tʃo:nhwa: チョーヌワ	ma:lhada: マールハダ
표준 한국어 발음사전	1992	전영우	정문당	dʑo:nhwa	ma:lhada
日韓・韓日小辞典	1993	李寅泳監修・崔海淑編	白帝社	tʃo:nwa: チョーナ	ma:lhada: マールハダ
デイリー日韓英・韓日英辞典	2002	福井玲・尹亨仁	三省堂	ジョンファ	マルハダ
パスポート朝鮮語辞典	2013	塚本勲・熊谷明泰・黄鎮杰	白水社	チョーナ	マールハダ
コスモス朝和辞典 (第二版)	2013	菅野裕臣	白水社	tʃo:nhwa: チョーンファ	ma:r-hada: マールハダ
身につく韓日・日韓辞典	2014	尹亨仁	三省堂	tʃo:nhwa: チョーンファ	ma:rhada: マルハダ
国立国語院韓国語基礎辞典	2018	国立国語院	国立国語院	전:화	말:하다
Never辞典	2018	Never	Never	전:화	말:하다
Google Translate	2018	Google	Google	jeonhwa	malhada

声 h (ㅎ) の発音は発音とおりになっていたものの、カタカナ表記は弱音化・無音化して表記しており、矛盾していた。一方、日本国内の韓国語辞典は、弱音化および無音化して表記したものと本音とおりに表記したものに分かれていた。

また韓国の国立国語院の韓国語基礎辞典（韓国語－日本語辞典）、Never 辞典、Google Translate などのネット辞典は、すべて発音とおりになっていた。

また音声表記をみると、国際音声字母で表記したもの、ローマ字ミックス記号で表記したもの、カタカナのみで表記したもの、韓国語と国際音声記号のミックスで表記したものなどに分かれており、発音表記の統一性や基準を設ける必要性がうかがえた。たとえば、전화（電話）の저の場合、tʃɔ（小学館）、jeo（民衆書林、白帝社、Google Translate）、dʒɔ（角川書店）、dʒɔ（집문당）、cho（日本放送出版協会）³⁰⁾ など、発音表記が統一されていなかった。

5. 実 態 調 査

文献研究の結果、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音について、韓国は発音とおりになっており、北朝鮮は弱音化していた。また日本で出版された韓国語教材は、発音とおりになっているものと、弱音化および無音化になっているものに分かれていたが、弱音化および無音化すると説明している教材の方が多かった。また日本の大学で韓国語を教えている教員 8 名に答えを求めたが、「初声 h (ㅎ) は弱音化および無音化する（4人）」「初声 h (ㅎ) は本音とおりに発音する（2人）」「両方とも可能である（2人）」という意見に分かれた。

以上のことから考えると、韓国人と日本語母語話者の韓国語学習者においても同様の結果が予測される。そのため、韓国のソウル市の大学に在籍している大学生と日本の H 県に住んでいる日本語母語話者の韓国語学習者を対象に実態調査を行った。調査は 2017 年 6 月から 10 月までの期間に配票法により実施した。回答者の特性は表 5 のとおりである。調査の項目として「終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音はどうなりますか」という項目を設けた。なお回答は 3 件法（「1. 弱音化および無音化する」「2. 本音とおりに発音する」「3. どちらともいい」とした。

表 5 調査対象の特性

	韓国の大学生 (n=63)		日本語母語話者の韓国語学習者 (n=54)	
性別	男子 (n=25)	女子 (n=38)	男子 (n=15)	女子 (n=39)
年齢	18.1±0.45	18.4±0.76	26.0±12.1	25.2±10.0
韓国語経験年数			1年～3年 (n=8) 3年以上 (n=7)	1年～3年 (n=20) 3年以上 (n=19)

韓国の大学生、日本語母語話者の韓国語学習者、経験度による比較別の結果を示すと図 1、図 2、図 3 のとおりである。項目としては「終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㄹ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音はどうなりますか」という項目を設けた。韓国の大学生回答は、弱音化および無音化 3 名 (4.8%)、本音とおり 59 名 (93.7%)、どちらとも 1 名 (1.6%) であり、9 割以上が初声 h (ㅎ) は本音とおり発音すると捉えていた。一方、日本

韓国の大学生の回答 (n=63)

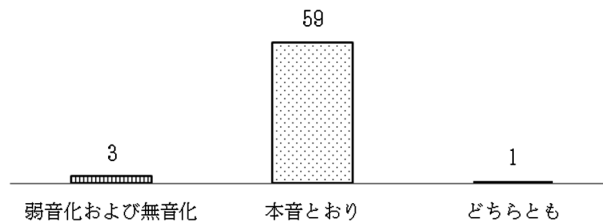


図 1 韓国の大学生の回答

日本語母語話者の韓国語学習者 (n=54)

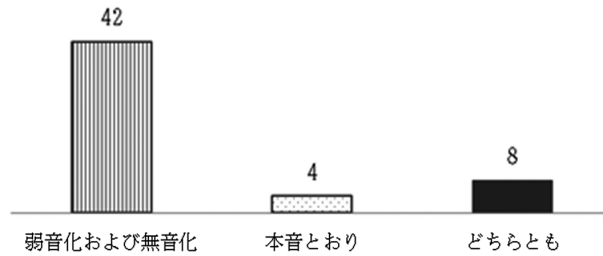


図 2 日本語母語話者の韓国語学習者

経験度による比較 (n=54)

■ 1年～3年 □ 3年以上

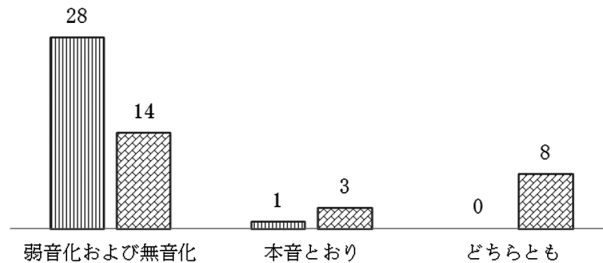


図 3 日本語母語話者の韓国語学習者 (経験度による比較)

語母語話者の韓国語学習者回答は、弱音化および無音化42名 (77.8%)、本音とおり4名 (7.4%)、どちらも8名 (14.8%) であり、7割以上が初声 h (ㅎ) は弱音化および無音化すると捉えていた。

実態調査の結果は、文献研究の結果と同様であり、韓国においては本音とおり発音すると捉えていた。一方日本語母語話者の韓国語学習者は弱音化および無音化すると捉えている者が多かった。しかし、経験度が高くなると、弱音化および無音化するという捉え方が弱くなり、どちらもいいと捉えるようになる傾向がみられた (図3)。この変化は、日本語母語話者の経験度が高くなるにつれ、韓国内で出版された韓国語辞典やネット韓国語辞典などに接する機会が増え、弱音化および無音化するのか、本音とおり発音するのか、紛らわしくなり、どちらもいいと捉えるようになったのではないかと考えられる。

6. ま と め

本研究の目的は、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音法を明らかにすることであった。

第1に、韓国語における発音表記の変遷 (韓国を中心に) を概略した上、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとに初声 h (ㅎ) が続くときの初声 h (ㅎ) の発音法を明らかにした。その結果、標準発音表記法は、韓国より北朝鮮の方が先に定めており、初声 h (ㅎ) の発音および発音表記は、韓国と北朝鮮で異なっていた。すなわち韓国では終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとの初声 h (ㅎ) は発音とおりになっていたが、北朝鮮では弱音化していた。

第2に、韓国語教材 (主に大学教材) や韓国語辞典 (国立国語院の韓国語基礎辞典, Never 辞典, Google 辞典などネット辞典を含む) にみられる初声 h (ㅎ) 発音の説明を分析した。その結果、日本で出版された大学教材は、韓国の標準発音法に従ったものと北朝鮮の朝鮮語発音法に従ったものに分かれていたが、北朝鮮の発音法に従った韓国語教材の方が多かった。また韓国語辞典の発音表記も韓国で出版されたものと日本で出版されたものが異なっていた。韓国で出版されたものは、本音とおりになっているものの、日本で出版されたものは、「本音とおりになっているもの」と「弱音化および無音化している」ものに分かれていた。一方、韓国の国立国語院の韓国語基礎辞典, Never 辞典, Google 辞典などのネット辞典は、すべて韓国の標準発音法に従い、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとの初声 h (ㅎ) の発音は、発音とおりになっていた。

第3に、韓国の大学生と韓国語を習う日本語母話者を対象に実態調査を行った。その結果、韓国の大学生は、初声 h (ㅎ) の発音は、発音とおりになると捉えていた。しかし、日本で韓国語を習う日本語母話者は、初声 h (ㅎ) の発音は弱音化すると捉えているものが多かつ

たものの、韓国語の経験が高くなるにつれ、どちらともいいと捉えるようになる傾向がみられた。

韓国語を習う日本語母話者において発音変化や発音規則が「もっとも難しいこと」「苦手なこと」「もっとも補ってほしい部分」であることを考えると、日本における初声 h (ㅎ) の異なる発音表記や説明は、学習者をさらに混乱させることになりかねない。そのため、終声 n (ㄴ), r (ㄹ), m (ㅁ) のあとの初声 h (ㅎ) の発音は、韓国と北朝鮮が異なっていることをはっきり示す必要がある。このような発音表記問題を解決する方法としては、韓国の標準発音法の日本語訳が急務であると考えられる。

参考および引用文献

- 注1) 桂正淑, 日本における韓国語学習・教育の問題点——韓国語テキストの比較, 文化情報学, 12(2), 40頁, 2005. 川越菜穂子, 韓国語の「文字と発音」導入の問題について——日本語母話者のための韓国語教科書の分析を通して——, 帝塚山学院大学研究論集, 50, 1頁, 2015. 朴南圭・田島ますみ, 外国語教育における Speak Everywhere の有効性について——韓国語の文字と発音のずれを中心に——, 中央学院大学人間・自然論叢, 35, 47-59, 2013. 桂 (2005) によれば, 日本の4年制大学での科目名と割合は, 韓国語33.4%, 朝鮮語27.8%, ハングル14.3%, コリア語7.8%, 韓国・朝鮮語5.7%などである。朴ほか (2013) は, 「韓国語という呼び方については韓国国内ではハングルもしくは国語, 日本においては学術的には朝鮮語という名称である」(58頁)としている。朝鮮民主主義人民共和国では, 「朝鮮語」という名称が使われている。本稿は, 主に大韓民国の言語を対象とするため「韓国語」とした。
- 注2) 列強が朝鮮の植民地化に向けて動いている国際情勢の中, 朝鮮王国・高宗は外国と対等な独立国家であることを示そうと, 1897年国号を大韓帝国 (1897-1910) に改称して近代化を目指した。
- 注3) 日本から電話する場合は, 82-44-203-2537
- 注4) 日本から電話する場合は, 82-1599-9979
- 注5) <https://krdict.korean.go.kr/jpn/mainAction>
- 注6) <http://dic.naver.com/>
- 注7) <https://translate.google.co.jp/m/translate?hl=ja>
- 1) 鈴木陽二 (2013), 韓国・朝鮮語学習の初期段階における文字と発音の教授法に関する一考察——母音字とその発音を中心に——, 外国語教育——理論と実践, 39, 34頁。
- 2) 前掲, 34頁。
- 3) 梁正善 (2010), 日本語母話者の韓国語学習者における意識調査研究, 長崎外大論叢, 14. 桂正淑 (2005), 日本における韓国語学習・教育の問題点——韓国語テキストの比較——, 文化情報学, 12(2). 朴瑞庚 (2017), 第2外国語として韓国語学習に関する意識調査——島根大学の事例分析, 島根大学外国語教育センタージャーナル, 12。
- 4) 梁正善 (2010), 日本語母話者の韓国語学習者における意識調査研究, 長崎外大論叢, 14, 188頁。
- 5) 朴瑞庚 (2014), 日本人学習者による韓国語の音声運用に関する研究——学習者の動機づけと韓国語の音声運用に見られる特徴——, 京都大学博士論文 (論文内容の要旨)
- 6) The Korean Education Institution in Hiroshima http://hiroshima.kankoku.or.kr/icons/app/cms/?html=/jp/sub/jpint2_1.html&shell=/jp/layout.shell:559 2018年3月29日
- 7) 韓国最大手のインターネット検索ポータルサイト。 <http://dic.naver.com/>
- 8) 朴炫国 (2008), 韓国語と「キチエ語」の/h (ㅎ)/音の比較研究, 龍谷大学紀要, 29(2), 28頁。
- 9) 前掲, 39-40頁。
- 10) 梁炫玉 (2008), 日本語を母語とする韓国語学習者のための韓国語の発音教育, 大阪経大論集, 59-60頁。
- 11) 姜奉植 (2016), 日本人韓国語学習者の為の韓国語発音変化の諸規則, 岩手県立大学高等教育推進センター

- 紀要 (リベラル・アーツ), 10, 40頁。
- 12) 関光準 (2007), 韓国語ソウル方言のイントネーション, 音声研究, 11 (2), 19頁。Jun, Sun-Ah (2000), K-ToBI (korean ToBI) labelling conventions (version 3.1)
 - 13) 松崎 寛・河野俊之 (2007), 『よくわかる音声』, アルク, 20頁。
 - 14) 金炫勇 (2017), h (ㅎ) の弱音化に関する研究——音響音声学に着目して——, 韓国学研究会, 発表資料。Praat (ver 5.2.32) を用いてスペクトグラム (Spectrogram) から波形と Voice Bar を観察した。전화 (電話) の場合, 지나 (tsɔnwa) は有声音, 전화 (tsɔn : fiwa) は無声音となる。
 - 15) NHK 出版 (2018), 『テレビでハングル講座』, 4月号, 8頁。
 - 16) 국어연구소 (1988), 『한글 맞춤법 해설』, 1-2頁。문화체육관광부 (2011), 『국어 발전과 보전에 관한 정책시행 결과 보고서』。また国立国語院のホームページ <http://www.korean.go.kr/>などを参考した。
 - 17) 国家法令情報センター <http://www.law.go.kr/>, 国語基本法
 - 18) 国立国語院のホームページ <http://www.korean.go.kr/> 標準発音法第12項4の「解説」http://www.korean.go.kr/front/page/pageView.do?page_id=P000100&mn_id=95 2018年3月21日
 - 19) 前掲8) に同じ。
 - 20) 朝鮮民主主義人民共和国内閣直属国語査定委員会, 『朝鮮マル規範集』, 朝鮮民主主義人民共和国内閣直属国語査定委員会, 1966。全文 (朝鮮語) は, 以下で確認できる。
[https://ko.wikisource.org/wiki/%EC%A1%B0%EC%84%A0%EB%A7%90_%EA%B7%9C%EB%B2%94%EC%A7%91_\(1966\)/%ED%91%9C%EC%A4%80%EB%B0%9C%EC%9D%8C%EB%B2%95](https://ko.wikisource.org/wiki/%EC%A1%B0%EC%84%A0%EB%A7%90_%EA%B7%9C%EB%B2%94%EC%A7%91_(1966)/%ED%91%9C%EC%A4%80%EB%B0%9C%EC%9D%8C%EB%B2%95) 2018年3月18日
 - 21) 全文 (朝鮮語) は, 以下の WIKISOURCE ホームページで確認できる。
[https://ja.wikisource.org/wiki/%E6%9C%9D%E9%AE%AE%E8%AA%9E%E8%A6%8F%E7%AF%84%E9%9B%86\(1966\)](https://ja.wikisource.org/wiki/%E6%9C%9D%E9%AE%AE%E8%AA%9E%E8%A6%8F%E7%AF%84%E9%9B%86(1966)) 2018年3月29日
 - 22) 全文 (朝鮮語) は, 以下の WIKISOURCE ホームページで確認できる。
[https://ja.wikisource.org/wiki/%E6%9C%9D%E9%AE%AE%E8%AA%9E%E8%A6%8F%E7%AF%84%E9%9B%86\(1987\)](https://ja.wikisource.org/wiki/%E6%9C%9D%E9%AE%AE%E8%AA%9E%E8%A6%8F%E7%AF%84%E9%9B%86(1987)) 2018年3月29日
 - 23) 小栗章 (2003), フォーラム2002日本における韓国語教育の現在, 月刊韓国文化, 281 (4), 44-48頁。
 - 24) 桂正淑 (2005), 日本における韓国語学習・教育の問題点——韓国語テキストの比較, 文化情報学, 12 (2), 38-40頁。
 - 25) 前掲, 38頁と41頁。
 - 26) 前掲, 44頁。
 - 27) 前掲, 44頁。
 - 28) 前掲, 42頁。
 - 29) 斎藤純男 (2002), 『日本語音声学入門』, 三省堂, 15頁。
 - 30) 日本放送出版協会 (2011), 『まいにちハングル講座』, 日本放送出版協会, 2月号, 8頁。

Summary

A study on the pronunciation of the initial
consonant ㅎ (h) in Korean language

Kim Hyun Yong

The purpose of this study is to clarify the pronunciation of the initial consonant ㅎ (h) when the initial consonant ㅎ (h) follows after the final consonants ㄴ (n), ㄹ (r), ㅁ (m).

First, I outlined the transition of pronunciation in Korean (mainly in South Korea) and then clarified the pronunciation method of the initial consonant ㅎ (h) when the initial consonant ㅎ (h) follows after the final consonants ㄴ (n), ㄹ (r), ㅁ (m) with the rules of 'Korean standard pronunciation (標準発音法)'. Secondly, I analyzed the explanation of when the initial consonant ㅎ (h) follows the final consonants /ㄴ (n), ㄹ (r), ㅁ (m) / in Korean language teaching materials (mainly university teaching materials), Korean dictionaries including a Korean dictionary of the national institute of the Korean language, Never Korean dictionary, Google Korean dictionary. Thirdly, I examined how Korean university students and Japanese Mandarin Speakers learning Korean perceive the initial consonant ㅎ (h) when the initial consonant ㅎ (h) follows after the final consonants /ㄴ (n), ㄹ (r), ㅁ (m)/. The results of the study are as follows:

South Korea and North Korea had different pronunciation and pronunciation notation on the initial consonant ㅎ (h) after the final consonants /ㄴ (n), ㄹ (r), ㅁ (m)/. In Korea the initial consonant ㅎ (h) after the final consonants /ㄴ (n), ㄹ (r), ㅁ (m)/ was pronounced as it was. But in South Korea it was weakened. The Korean language materials and Korean dictionaries published in Japan were divided into those that follow South Korean pronunciation rules and those that follow North Korean pronunciation rules. These differences can cause confusion for learners.

Considering that pronunciation change and pronunciation rules are “the most difficult thing”, “weak things” for Japanese Speakers who learn Korean, it is necessary to pronounce clearly the initial consonant ㅎ (h) when the initial consonant ㅎ (h) follows after the final consonants ㄴ (n), ㄹ (r), ㅁ (m). To solve such a pronunciation notation problem, Japanese translation of Korean standard pronunciation is urgent.

金：韓国語における初声 H (ㅎ) 発音に関する一考察

Keywords: the initial consonant, the final consonants, Korean standard pronunciation, North Korean standard pronunciation